

2017年3月24日（金）

日本藻類学会第42回大会仙台大会懇親会挨拶

藻類学会会長の奥田一雄です。

このたびは日本藻類学会第42回大会仙台大会にご参加いただき、まことにありがとうございます。

本大会を東北大学で開催するにあたり、大会会長の吾妻行雄（あがつまゆきお）先生ならびに大会準備委員会委員長の青木優和（あおきまさかず）先生には、そのご準備と実施運営のために労を尽くしていただき、まことにありがとうございます。

藻類学会を代表して厚くお礼申し上げます。

さて、この3月11日で、甚大な被害をもたらした東日本大震災と大津波から7年が経過いたしました。しかし、いまなお、被災地の人々の生活と様々な産業の復旧・復興は道半ばの状況と拝察申し上げます。

その東日本大震災に伴う大津波は、宮城県を含む東北太平洋沿岸および沖合の生態系に甚大な被害を及ぼしました。海洋生態系に与えた影響を正確に把握し、この海域環境と海洋資源の修復のメカニズムを科学的に明らかにし、復興に繋げていくことが重要です。

本大会では、明日の公開シンポジウム、「沿岸域のモニタリング — 藻場の過去・現在・未来」において、いくつか震災関連の研究発表がなされます。吾妻先生や青木先生らによって取り組まれている「東北マリンサイエンス拠点形成事業」の成果も拝聴できると思います。

ここ東北仙台の地に、藻類学会の多くの会員が集まり、それぞれが展開してきた教育・研究活動の成果を発表することで、地域社会および産業界へ有意義な情報発信ができることを望みます。

それでは、どうぞ今宵は良いお酒と美味しい料理で、藻類学会会員同士の意見交換と懇親を深めていただければ幸いに存じます。

以上